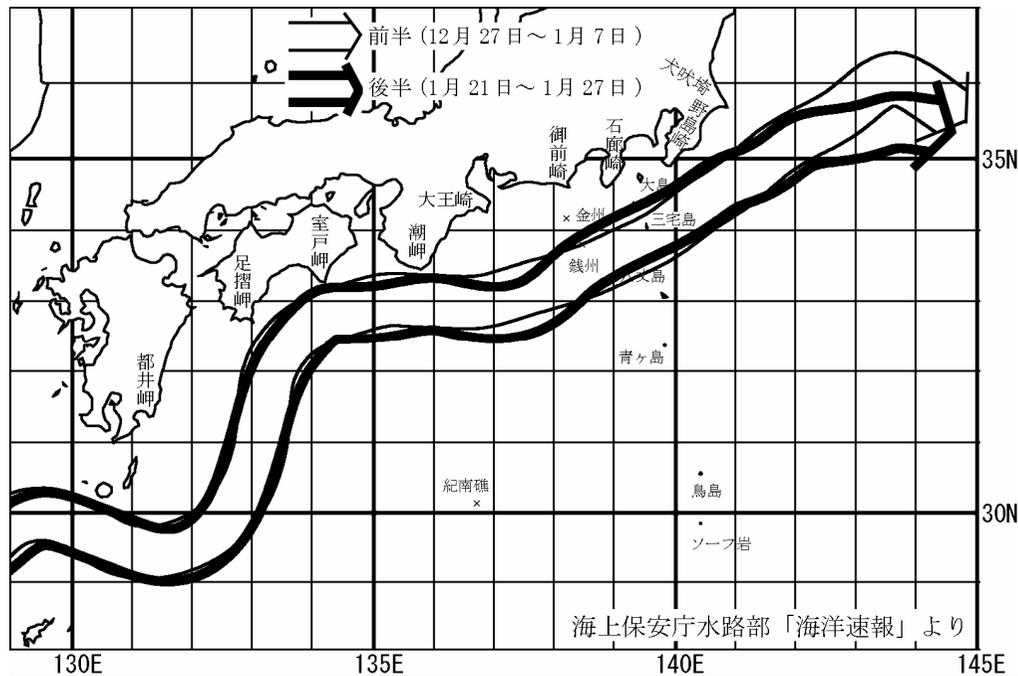


漁海況月報

平成 16 年 1 月 1 日

No. 1 ~1 月 31 日

静岡県水産試験場
(電話 054-627-4815)
静岡県水産試験場伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



【黒潮流路】

黒潮は、12月に引き続きN型基調で推移し、33°~33°30'N付近を東進、御蔵島から三宅島付近を通過したのち房総沖を北東に流去した。1月を通じて遠州灘沖には冷水渦があり、1月10日頃、20日頃に駿河湾と相模湾に暖水波及が見られた。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は、相模湾側では13~17台、駿河湾東部では14~17台、駿河湾西部では10~15台で経過した。暖水波及により、湾口に近い下田(相模湾側)や雲見(駿河湾側)では、平年並みから高め基調であったが、伊東や地頭方では平年並みから平年よりも低めで推移した。

【定置網】

平成16年1月、伊豆半島東岸大型定置網8か統(伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)における水揚量は203トンであった。1漁場当たり水揚量25.4トンは、前年23.8トンの106%、平年値(昭和57~平成14年平均値)19.5トンの1.3倍であった。

魚種別にみると、カタクチイワシ122トン(前年の47%、平年の6.7倍)、スルメイカ29.3トン(前年の1.2倍、平年の1.6倍)、サンマ16.5トン(前年の1.3倍、平年の92%)、サバ類6.8トン(前年の7%、平年の50%)、マンボウ5.9トン(前年の55%)の順に多かった。

カタクチイワシは川奈、富戸、北川を中心に入網し、被鱗体長のモードは12~13cmであった。スルメイカは北川で最も多く入網し、スルメイカ全漁獲量の84%を占め、外套背長の中心は25~28cmであった。サンマは北川で最も多く入網し、サンマ全漁獲量の85%を占め、肉体長の中心は20~30cmであった。サバ類は北川を中心にゴマサバ主体で入網し、尾叉長の範囲は22~33cmであった。マンボウは相模湾北部の伊豆山、古網、赤石の3漁場でほぼ100%を占め、全長の範囲は37~130cmであった。

漁場別水揚量は、カタクチイワシ、スルメイカ及びサンマの漁獲が多かった北川(71.0トン)、カタクチイワシの漁獲が多かった川奈(57.8トン)、富戸(34.4トン)の順であった。

【竿釣近海カツオ】

1月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海カツオの水揚量は46トンで前年同期の17%であった。魚価は532円/kgで、前年同期を大きく上回った。

静岡県船は、主に中旬から今年の操業を開始した。

2004年1月

定地水温の旬平均値()

(下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	15.1	16.2	15.7	16.7	15.1	15.5	13.5
	-0.2	0.3	0.4	1.1	-0.6	0.8	0.4
中旬	14.6	15.7	16.1	17.0	15.8	15.9	12.4
	-0.3	0.4	1.4	1.9	0.8	1.6	0.1
下旬	14.1	15.0	14.7	16.0	15.6	15.3	11.0
	-0.4	0.1	0.4	1.4	1.0	1.3	-0.9
月平均	14.6	15.6	15.4	16.6	15.5	15.5	12.2
	-0.3	0.2	0.7	1.5	0.5	1.2	-0.2

竿釣近海カツオ水揚量 (県内主要5港)

期間	水揚量 (トン)	水揚隻数	水揚量/隻 (トン)	平均単価 (円/kg)
16年1月上旬	0	0	-	-
中旬	20	1	20.0	580
下旬	26	5	5.2	493
16年1月計	46	6	7.7	532
15年1月計	273	13	21.0	365
14年1月計	80	8	10.0	565

[シラス船曳網]

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾で56kg、遠州灘で122kgだった。主要6港平均では89kgと前年同期(105kg)の85%、平年同期(過去5か年平均:75kg)の119%であった。1月の総水揚量は12トンと、前年同期(11トン)の113%、平年同期(10トン)の119%に当り、前年、平年ともに上回った。平均単価は987円/kgと平年同期(1,030円/kg)を下回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁港	水揚量(トン)	日数	延統数	平均漁獲量(kg/統/日)	平均単価(円/kg)
新居	-	0	-	-	-
舞阪	-	0	-	-	-
福田	4.6	1	23	202	610
御前崎	3.7	4	45	82	877
吉田	2.0	2	24	85	1,040
静岡	1.8	2	44	41	1,516
平成16年1月計	12.1	-	136	(平均)89	(平均)897
平成15年1月計	10.7	-	102	105	914
平成14年1月計	11.2	-	142	79	1,114

[サバたもすくい棒受網]

小川港に水揚げされたサバ類は303トンでマサバが1トン混じった。漁場は、三宅、大島、利島近海を中心に形成され、マサバは大島~利島近海で漁獲された。魚体の大きさはマサバでは31~33cm、ゴマサバでは26~30cmでいずれも2002年級群(2歳魚)が主体であった。1kg当たりの平均単価はマサバでは303円、ゴマサバでは51円であった。

小川港 サバ類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期間	水揚量(トン)	日数	延隻数	1隻当り(トン)	漁場
平成16年 上旬	-	-	-	-	-
1月 中旬	113	3	6	18.8	三宅、大島
下旬	190	4	16	12.0	三宅、利島
計	303	7	22	13.8	- - - - -
平成15年1月	465	8	35	13.3	三宅、大島
平成14年1月	337	7	14	24.1	三宅、三本

[まき網]

小川港では、マイワシは83.2トン水揚され、平年同期(過去5か年平均:196.5トン)の42%と低調であった。カタクチイワシは水揚されなかった。

沼津港では、マイワシは112.3トン水揚され、平年同期(196.2トン)の57%と低調であった。カタクチイワシは水揚されなかった(平年同期:5.8トン)

静岡港では、マイワシは水揚されなかった。過去5か年においても、1月にマイワシは水揚されて

いない。カタクチイワシは80.9トン水揚され、平年同期(2.2トン)の36.7倍と好調であった。伊東港では、マイワシは0.01トン水揚された。カタクチイワシは水揚されなかった。

[調査船の動向]

富士丸	1月19日~	南方カツオ調査(12日間)
駿河丸	1月6~8日	地先定線観測(駿河湾・遠州灘・伊豆)(3日間)
	1月15~16日	駿河湾内にてサクラエビIKMT調査(2日間)
	1月19~20日	大島、三宅島沖にて水温観測及びサバ漁場調査(2日間)
	1月26~27日	天竜川沖にてマリンロボ調査(2日間)
	1月29~30日	銭洲、金洲にてサバ調査(2日間)